

令和2年度
獨協医科大学 教育セミナー

コロナ禍における業務改善の取り組み 看護学部の取り組みとその評価 第2報 学生支援

獨協医科大学 看護学部

板倉朋世 (学生部長)
馬醫世志子 (IR)
小西敏子 (教務部長)



背景・目的



背景

COVID-19の影響により、学生は経験したことのない生活下にあった。

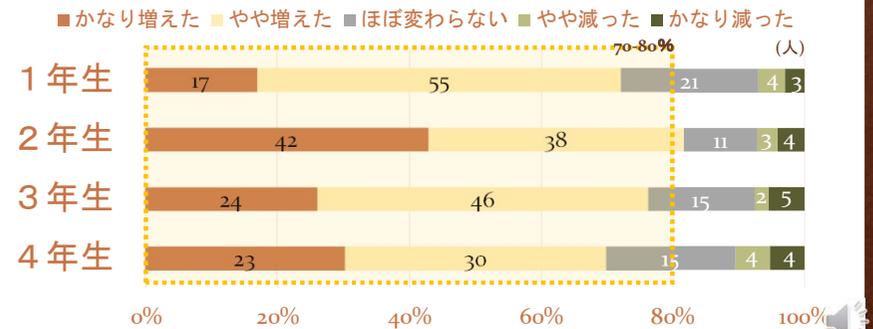
- ・人と会えない自粛生活
- ・初めてのオンライン授業
- ・感染に対する不安
- ・アルバイト禁止
- ・サークル活動禁止

⇒授業のリフレクションには「同じクラスの人と話したい」「先輩と話したい」といった記載がみられるようになった。



自粛生活に伴う不安やストレス <学生生活調査_6月実施>

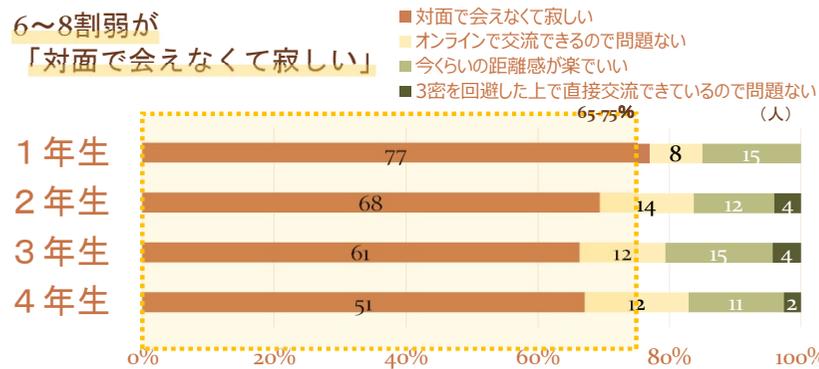
7～8割が「不安やストレスが増えた」と回答



友人関係 <学生生活調査_6月実施>

6~8割弱が

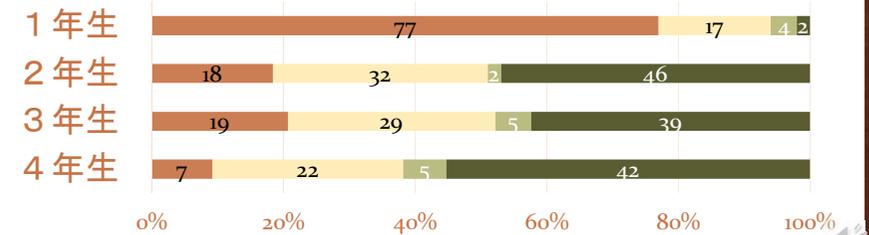
「対面で会えなくて寂しい」



新しい友人・先輩・後輩 <学生生活調査_6月実施>

1年生の8割弱が「作りたいのに作れなくて不安」と回答

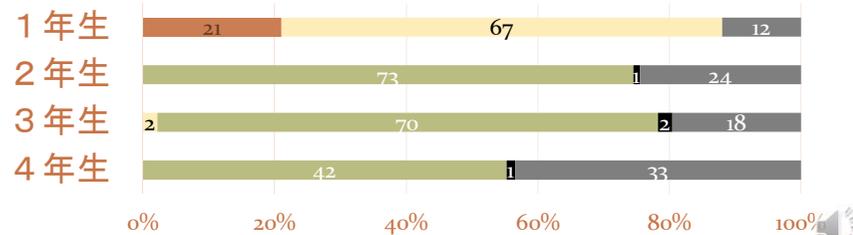
■ 作りたいのに作れなくて不安
 ■ 自粛解除後に作れるから心配していない
 ■ 自粛中でも作っているから大丈夫
 ■ 新しい人間関係を求めている



サークル活動 <学生生活調査_6月実施>

1年生の9割弱が「入りたいけど入れない、選べない」と回答

■ 入りたいサークルがあるが、自粛生活で入れない
 ■ サークルに入るか検討したいが、自粛生活で選べない
 ■ 自粛生活以降、サークル活動は行っていない
 ■ 学外/onlineでサークル(部)活動を行っている
 ■ もともとサークルに入る気はない



目的

COVID-19の影響により、本学初のオンライン授業の導入に至った。突如の導入となったが、通常の学生生活と同様に、学生が充実した学生生活を送れるよう支援した。学生支援の取り組みの実際とその結果および今後の課題について報告する。

コロナ禍における 看護学部への取り組み

学生支援

看護学部への取り組み（2020年前期）

日	取組内容	調査日	調査
4/1	オンライン授業決定		
4/2	Zoom練習会（教員対象）	4/2~4/3	オンライン学修環境調査
4/8	オンライン授業デモ配信	4/8	デモ配信後調査
4/13	オンライン授業開始	4/16~4/17	オンライン授業開始後調査
4/24	7月末までの オンライン授業決定	5/1~5/8	オンライン授業による 業務量調査（教員/職員）
6/2~7/20	学生支援交流会@Zoom	5/29~6/3	学生生活調査
7/13~	学内施設利用の順次再開		

※看護学部生の大学入構は原則禁止

学生支援の概要

- ・「健康観察報告」の義務付けと発熱者等への対応：LMS/メール/電話
- ・科目担当/ゼミ担当教員による個別対応：LMS/メール/電話/Zoom
- ・教務部長/学生部長による全体・個別対応：LMS/メール/電話/Zoom
- ・担任による個別対応：LMS/メール/電話/Zoom
- ・**学生支援交流会**：教員学生間、学生間：Zoom
- ・教務委員会/学生生活委員会委員（教員）と学生の懇談会：Zoom
- ・キャリア支援室による個別対応：メール/Zoom

◆アルバイト・サークル活動は全面禁止◆

学生支援交流会

- ・目的：学年を超えた学生間の交流、学生と教員の交流
- ・開催日時：6月の平日18:00-19:00
- ・開催方法：Zoom
- ・内容：学年別交流、男子学生交流、全学年合同交流、サークル紹介、学生-教員交流、オンラインヨガ等
⇒延べ1,093名参加
200件を超える好評価コメントあり

学生支援交流会 <コメントを一部抜粋>

企画全般を好評価

- ・「面白かった」「とても楽しかった」
「とてもよい企画だと思う」「素晴らしい」
- ・サークル、友達作り、先生との交流とまだまだ慣れていない1年生にとって一歩を踏み出す勇気くれた企画
- ・友達や先生方と会えない中での不安な気持ちなくなるようなとてもいい企画だった
- ・充実した時間を過ごすことができた
- ・とても学ぶことが多かった
- ・オンライン授業が終了しても続けて欲しい
- ・オンデマンドにもしてほしい

学生同士の交流による安心感

- ・「話足りないくらい楽しかった」「定期的に開催してほしい」
「もっと時間がほしかった」「すごく楽しかった」
- ・不安が共有出来てとても安心した
- ・話したことのない人と話せてとても良かった
- ・先輩方のお話を聞けてとても役立った

教員との距離が縮まる機会

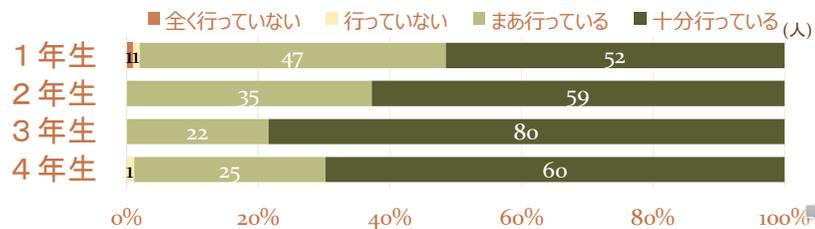
- ・とても先生方と接しやすくなった
- ・教員と学生間の距離が縮まる良い機会だった
- ・余り関わったことのない先生方と関わってよかった
- ・先生方の意外な一面、学生/キラキラな時代、プライベートや過去の話が聞けて良かった

結果

1. 学生の健康状態

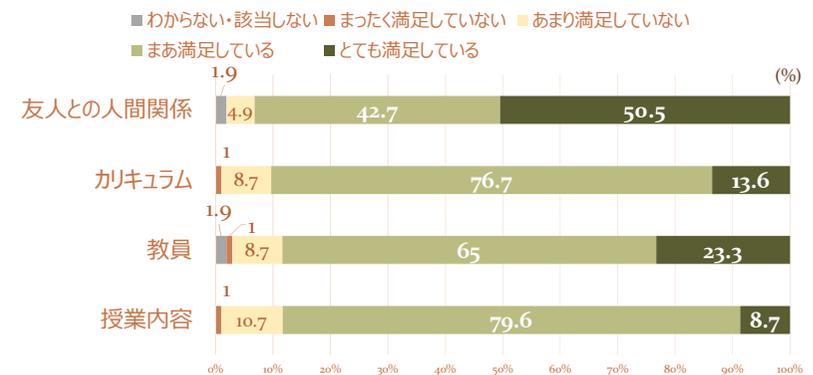
- ・感染者は発生していない。
- ・9割以上の学生が健康観察の報告ができ、99%以上の学生が「健康管理を行っている」と回答。
- ・未報告、発熱者がある場合は担任等が対応し、状況を把握している。

Q. 感染予防に留意し自己の健康管理を行っていますか <学生生活調査_12月実施>



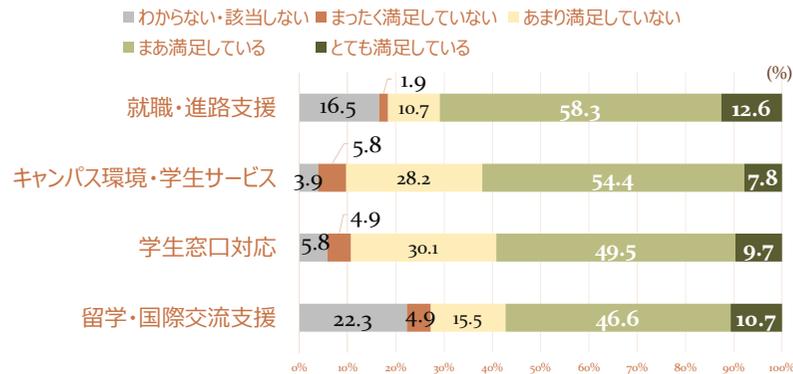
2-1 大学教育・学生生活への満足度

<GPS-Academic_N3_8月実施>



2-2 大学教育・学生生活への満足度

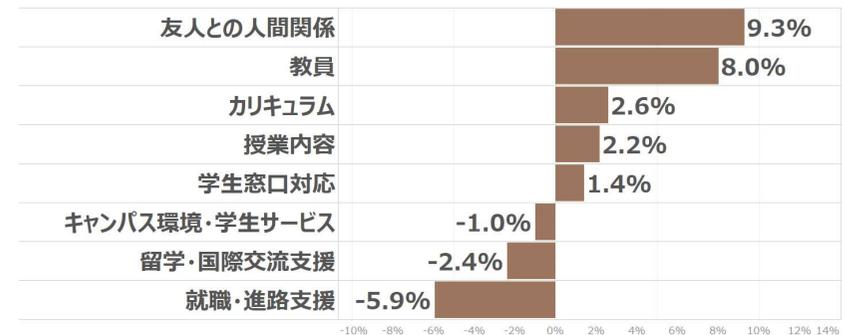
<GPS-Academic_N3_8月実施>



2-3 大学教育・学生生活への満足度

<GPS-Academic_N3_8月実施>

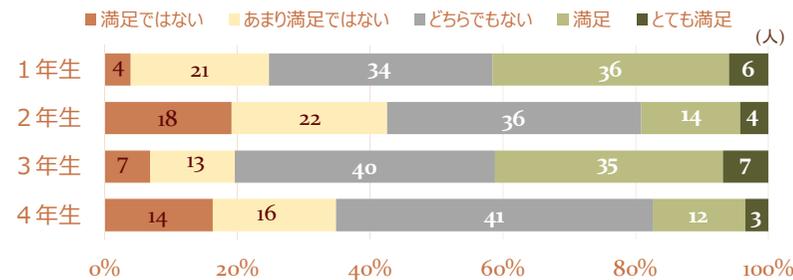
【前年度からの伸び率】



3. 現在の学生生活満足度

<学生生活調査_12月実施>

1・3年生は4割が「(とても)満足」、2割が「(あまり)満足ではない」
2・4年生は2割が「(とても)満足」、4割が「(あまり)満足ではない」と回答



まとめ

コロナ禍において、本学看護学部では、通常の学生生活と同様に、学生が充実した学生生活を送れるよう支援することを目的に学生支援を行い、以下の結果を得た。

- ① 感染者は発生しておらず、9割以上の学生が健康観察の報告ができています。
- ② 8月時点の3年生では、約9割の学生が「友人」「カリキュラム」「教員」「授業内容」に満足しており、「友人」「教員」については前年度より8-9%満足度が上昇した。
- ③ 12月時点の全学年調査での学生生活満足度は、学年によって異なる傾向が見られた。(対面授業開始後の授業形態の影響か。)

今後の課題

- ① 学生間、学生－教員間の交流の機会が少ない状況が続く可能性がある。
今後もオンライン授業や3密を避けた演習により、交流が難しい状況が続く可能性がある。
状況が変化する中で、どのように交流の機会を作るべきか検討していく。
- ② 健康観察の報告ができない学生がいる。
報告できずに授業や実習に参加できない学生もいる。
自己管理能力、看護職者としての自覚を育てる教育をする。
- ③ 学生の意見をすくい上げる機会があまりない。
各種調査、意見交換会、意見箱等で学生の意見を聞いているが、迅速に対応するには
頻繁に意見をすくい上げられるシステムの構築を目指す。
▶ 通常の授業に戻れない日々が続いているが、今後も学生の声を聞きながら、
できる限り学生が充実した学生生活を送れるよう支援をしていきたい。

ご清聴ありがとうございました